

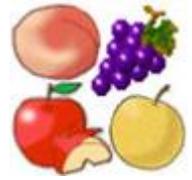


令和7年度 果樹情報 第18号

(令和8年3月4日)

果樹の発芽予測

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (1月～2月、果樹研究所)

平均気温は、1月が 0.8℃と平年より 0.8℃低く、2月が 4.0℃と平年より 1.7℃高く経過しました。

降水量は、1月が 52.0 mmで平年比 87%、2月が 21.5 mmで平年比 52%でした。

日照時間は、1月が 121.2 時間と平年比 80%、2月が 165.3 時間と平年比 98%でした。

2 発育予測

仙台管区気象台が2月26日に発表した1か月予報(2月28日～3月27日)では、今後の気温は平年より高く推移すると見込まれます。

●東北地方1か月予報(仙台管区気象台 令和8年2月26日発表)

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目(2/28～3/6)は、高い確率80%です。

2週目(3/7～3/13)は、平年並または低い確率40%です。

3～4週目(3/14～3/27)は、平年並の確率40%です。

(1) 果樹研究所 (3月2日現在)

果樹研究所(福島市飯坂町)における果樹の発芽は、気象庁の気象予報を用いた場合、もも「あかつき」が3月21日ごろで平年より2日早く、なし「幸水」が3月31日ごろで平年並、りんご「ふじ」が3月25日ごろで平年より1日早いと予測されます(表1)。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温が2℃以上高く推移した場合、さらに生育が早まることあるため注意が必要です。

表1 発芽予測日 [予測方法: 発育速度(DVR)モデルによる発育予測] (果樹研究所)

	発芽日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
あかつき	3月24日	3月23日	3月21日	3月21日	3月23日	3月26日
幸水	3月28日	3月31日	3月31日	3月28日	4月1日	4月5日
ふじ	3月26日	3月26日	3月25日	3月23日	3月27日	3月30日

注1) 発芽日の平年値は、1996～2025年の平均

注2) 気象予報とは、気象庁が発表する週間予報、2週間気温予報及び1か月予報気温(3～4週目)を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値

注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合があります

(2) 会津地域研究所 (3月3日現在)

会津地域研究所(会津坂下町)における果樹の発芽は、気象庁の気象予報を用いた場合、りんご「ふじ」が3月31日ごろで平年より1日早く、かき「会津身不知」が4月15日ごろで平年より2日遅いと予測されます(表2)。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温が2℃以上高く推移した場合、さらに生育が早まることあるため注意が必要です。

表2 発芽予測日〔予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測〕（会津地域研究所）

	発芽日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
ふじ	4月2日	4月1日	3月31日	3月29日	4月1日	4月4日
会津身不知	4月15日	4月13日	4月15日	4月12日	4月15日	4月19日

注1) 発芽日の平年値は、1996～2025年の平均

注2) 気象予報とは、気象庁が発表する週間予報、2週間気温予報及び1か月予報気温（3～4週目）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値

注3) 会津身不知では3月が極端な高温で推移した場合に、予測誤差が大きくなる傾向があります

気象庁〔営農活動に役立つ気象情報〕 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

3 栽培上の留意点

(1) 管理作業の計画的な実施

この時期の管理は、せん定、せん定枝処理、誘引及び休眠期防除等が中心となります。発芽予測日や今後の気象予報等を考慮し、管理作業が遅れないように注意しましょう。

(2) ももの摘らい

摘らい作業の適期は、3月上旬から発芽直前までであり、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を傷めやすい上に、花らいが離脱しにくくなり、能率が極端に低下します。

摘らい作業は時間を要するので計画的に実施しましょう。

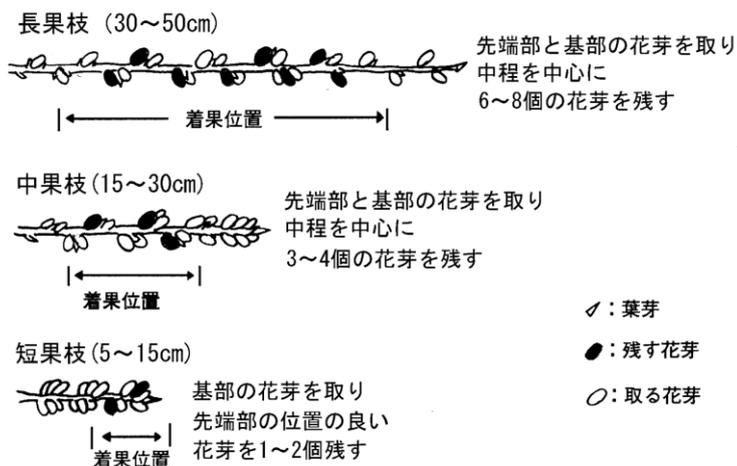


図1 ももの摘らい方法

4 病虫害防除上の留意点

本年の発芽日は、概ね平年並からやや早まる見込みです。

発芽前の防除は、時期が遅れないように注意し、週間天気予報を確認しながら、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

(1) 全体

県内の各地域でカイガラムシ類の発生が確認されています。発生が多い園地では、ワイヤーブラシなどで越冬部位をよくこすり落としましょう。

(2) りんご

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期の防除を徹底し、発病部位は削り取るかせん除しましょう。

輪紋病の発生が多い園地等で枝幹にいぼ病斑が見られる場合は、病患部を削り取りましょう。

うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度低下を図りましょう。

ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(3) もも

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）の防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(4) ネクタリン

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）の防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及

び主枝に散布しましょう。

また、ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(5) なし

黒星病及びハダニ類に対して、発芽10日前までに石灰硫黄合剤10倍を散布しましょう。特に、前年にニセナシサビダニ等の越冬病害虫が多発した園地では散布が必要です。

また、黒星病の枝病斑は伝染源にはなりません、枝病斑が見られる枝では芽基部感染の可能性があるので、枝病斑の有無を十分に確認しながらせん除しましょう。

黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、せん定時に取り除きましょう。

ハダニ類やカイガラムシ類の発生が多い場合は、発芽10日前までの石灰硫黄合剤に替えて機械油乳剤95又はハーベストオイルを使用し防除を行います。樹勢が低下した樹には使用しないよう注意しましょう。

(6) ぶどう

晩腐病や黒とう病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

また、晩腐病に対しては、休眠期の防除を徹底しましょう。

前年にハダニ類の発生が多かった園地では、休眠期に防除を実施しましょう。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>